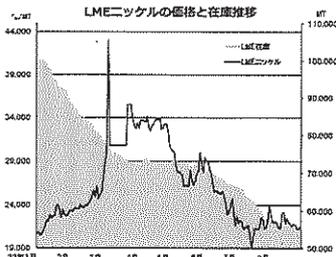


**関西
ステンレス**

需要低迷で上値重く、様子見商状

(大阪) 関西地区のステンレススクラップ相場は様子見商状。先週までに市中では極端な安値を修正する動きが広がったが、市況は明確な反発材料を欠いたまま概ね横ばいで月末を迎えた。市中の発生薄や輸出大手の荷止め解除で一時的余剰感は後退するが、内外の需要家の引き合い鈍化は続いており、上値は重いのが実情。まだしばらくは模様眺めの域を出なさそうだ。

韓国向け輸出大手のSUS304新切れの仕切り値はキロ190~195円見当で変わらず。一時と比べ拠点ヤードの在庫が減少傾向にあるほか、先行きの入荷難を警戒する様子も窺え、同社の買値には小幅ながらも引き上げ観測が付きまとう状況だ。しかし、韓国大手ミルの高値抑制の姿勢や買い気は戻っていない模様で、ある商社筋は「韓国の需要家に在庫を積み増す動きは聞かれない。製品環境も牙えずリスク回避の動きを強めたままで、スク



ラップの配合比率を落としているようだ」と語る。

一方、国内ミル各社の購入価格も足元キロ190~195円見当で変わらず。買い控えや安価な海外製品の流入増でミル各社の生産水準は下振れ観測が優勢で、内需は盛り上がりや欠く状態。高炉系大手などは9月も2割程度の納入制限を継続する見込みで、購入姿勢に改善は見られない。ただ、市中の荷動きが旧盆明け以降、極端に鈍化しており先行きの入荷不安は持ち合わせている様子。輸出大手の動向を引き続き注視する方針が伝えられる。

LMEニッケル・ステンレススクラップ相場推移

	LMEニッケル相場 (月平均) \$/MT	LME Ni在庫 (期末/千)	ASIA・SABOT \$/MT	フェロクロム相場 高炭素品・6/LB	為替相場 (TTS)
2020年平均・合計	13,773	246,708	1,198	118.75	107.82
2021年平均・合計	18,478	101,886	1,659	160.38	110.80
2022年1月	22,326	90,600	2,020	188.00	115.85
2月	24,178	80,094	2,090	188.00	116.22
3月	31,861	72,570	2,200	188.00	119.53
4月	33,298	72,852	2,390	224.00	126.98
5月	27,950	71,718	2,180	224.00	129.81
6月	25,838	66,780	1,930	224.00	134.93
7月	21,483	57,804	1,780	188.00	137.79
8月	22,066	54,846	1,780	188.00	135.91

※8月は29日までの平均値

韓国のSUSスクラップ輸出量 8カ月連続の前年割れ 7月9,200ト

韓国の7月ステンレススクラップ輸出量は、前月比5.7%減、前年同月比43.8%減の9,292ト。インド向けの低迷で、全体量は8カ月連続で前年実績を下回った。

国別ではインド向けが最多だったものの、同31.5%増、同50.2%減の6,744トにとどまった。インド向けは

昨年4~8月にかけて1万3~5千トの実績が続いたため、今年は落ち込みが目立つ。次いで、日本向けが同5.9%増、同25.7%減の1,751トだった。

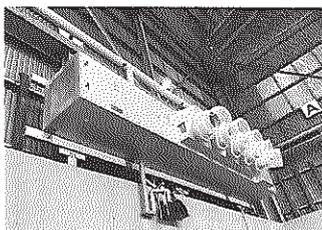
1~7月の累計輸出量は6万1120トで、前年同期比38.3%減となった。

富士興産、大正工場・倉庫に

大型空調設備と高速開閉シャッター導入

(大阪) レアメタルリサイクル事業を展開する富士興産(本社=大阪市浪速区、赤嶺和俊社長)は7月から大正工場・倉庫の酷暑対策として大型空調設備と高速開閉シャッターを導入し、稼働している。

空調設備に工場用ゾーン空調機を4基採用。しっかりと除湿した強力な冷気を方向が変えられる吹き出し口から15m離れた作業エリアまで送ることができ、冷気を倉庫全体に行き渡るよう4ヶ所に設置している。



大型空調設備

また冷気や冬場の暖気を外へ逃がさないように高速開閉シャッターを新たに倉庫の北と南側に設置した。これはシート製の中でも大きさが最大級になり、センサーが動くも

のを捉えて自動開閉する。設備導入後は現場スタッフから「厳しい暑さの中、今までとは違い、涼しく作業しやすい」と好評だ。

富士興産では働き方改革に注力しており、その一環として大正工場・倉庫を昨



最大級の高速開閉シャッター

年から大幅リニューアルしている。赤嶺社長は「この1年間で倉庫内の快適な労働環境を実現してきていると思う。また、この設備は今年から開始した太陽光パネルによる再生エネルギー電力の使用をしているので、同じく進めているSDGs活動に繋げている。これからも働きやすい環境づくりに努めていき、環境保全に貢献したい」と力を込める。